

「まずいスープ」私が初めて
 食べたときの感想だ。そして、「忘れられな
 い味」になった。
 小さいころの私は毎週のように風邪を引い
 ていて、その度に高熱を出していた。そのと
 きのこととは詳しく覚えていないが、母に聞く
 と病院に行ったり来たりでも大変だった
 そうだ。そのとき母は、「免疫力を高めるに
 はどうしたらいいんだらう？」
 「どうすれば
 風邪を引かなくなるの？」とたくさん悩んだ

と言っていた。そこで私が作ったもの、それ
 は「野菜スープ」だ。その野菜スープには、
 私が住んでいる「塩谷町」で育てられた新鮮
 な野菜がたくさん入っている。これを母は私
 のためを思っ作ってくれた。
 私はその野菜スープを初めて食べたとき
 「まずい！」と思った。そのころは、まだ小
 さくて食べ物を「美味しー」「まずい」で区
 別していた。そこでその野菜スープにつけた
 名前、それが「まずいスープ」だ。そのとき

私は、こんなスープもう食べたくない！
と言ったそうだ。

今思い返してみると、私が風邪を引いたときや体調がよくないとき母は必ずそのスープを作ってくれていた。そして、それを食べるのと体の調子がよくなることにもあらためて気づいた。その「まずいスープ」は、母が健康のことをよく考えて作ってくれ、母の気持ちに込められた。だからこそこのスープの味が、私の絶対

に「忘れられない味」となった。

私は、そのスープが「大好き」になった。地元でとれた栄養たっぷりの野菜を使っている健康にとっても良いスープ。今では、母と二人で一緒に作るようになった。まずいスープ私は一生忘れることかないだろう。母の思いが込められた、その「温かいスープ」を。